



～伝承遊びを通して心豊かに～

副保育長 坂田温子

年が明けてまもなく、東京にも10cmほど雪が降り積もりました。大人は翌日の朝のことなど心配になってしまいますが、子どもたちは昼過ぎから降り始めた雪の様子に驚いたり喜んだりして、早速窓際に駆け寄って外の様子を見ていました。幼児クラスはテラスで、乳児クラスは保育者がたらいに入れてきた雪にそれぞれ興味を示して手を伸ばし、フワフワした冷たい雪の感触を思う存分楽しんでいました。お迎えや翌日の登園の際には保護者の皆様は大変だったことかと思いますが、この季節ならではの空からのプレゼントを楽しむ様子にとっても温かい気持ちになりました。

また新年最初の行事に江戸太神楽の鑑賞がありました。今年は獅子舞との距離もソーシャルディスタンスを取っての鑑賞となったため、保育園児にとってはちょうど良い距離感で鑑賞できたようです。4歳児はドキドキしたり迫力に涙したりしながらもよく見ていました。5歳児は傘を使っての茶碗回しや、ジャグリングのように多数の撥（ばち）等を投げる「投げ技」芸に興味をもち、演者の方から「こうやってやったらいいよ」というアドバイスを受けて、早速お手玉を手に片手で練習する姿が見られました。

江戸太神楽で伝統を感じた子どもたちは、その後の遊びの中でもお正月遊びを楽しんでいました。ひよこ組は段ボール素材で作った羽子板でお部屋に吊るした風船に当てる羽根つきごっこを楽しみ、うさぎ組はビニール袋を利用したお手製凧を手にホールで一生懸命手を上げて走り回り、凧が揚がる様子に喜んでいました。ぱんだ組はかるた取りが大人気で、読み札の一字を読みながら皆で一生懸命絵札を探していました。

4歳児クラスは引きゴマに挑戦！ひよこ組が通り、興味を示すと張り切って練習の成果を披露していました。5歳児クラスは巻きゴマを回すだけでなく、更にレベルアップをしてお盆やフライパン等、小さい物の上にも乗せてみることに挑戦していました。できた嬉しさや友達と同じ遊びの楽しさに共感したり、挑戦する気持ちを応援したりする等、保育者も一緒に楽しんだひとときでした。

ニュースによると現在も地域のお祭りなどが中止になることが続いているようです。色々と制限されることが多いこの頃ですが、園内では例年通りそれぞれの学年の楽しみ方で、季節ならではの行事や日本ならではの伝承遊びを大切に楽しみ、子どもたちの心が豊かになる経験を積み重ねていきたいと思っています。